

つくば市非核平和都市宣言

広島・長崎に原爆が投下されてから四十五年がたちました。あの悲劇を二度と許さないという多くの人々の訴えにもかかわらず、いまなお人類を絶滅させて余りある核兵器が世界に存続し続けています。

青い空、緑豊かな大地、歴史に育まれたふるさとを核戦争の惨禍にさらしてはなりません。

世界をリードする国際科学都市つくば市は非核平和都市宣言を行い、核兵器廃絶と平和の願いを内外に示します。

- 一、（非核）核兵器の廃絶を求めること
- 一、（平和）戦争に反対すること
- 一、（科学技術）軍事研究に反対すること
- 一、（環境）青い空、みどり豊かなふるさとを守ること
- 一、（国際）世界の人々と平和を通じて交流すること

上記決議する。

平成2年9月27日

つくば市議会
つくば市



つくば市役所本庁舎1階 宣言掲示板



市民ホールやたべ



大穂庁舎



桜窓口センター



(旧)豊里庁舎



8月6日、令和7年平和記念式典(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)が広島の平和記念公園で行われ、本市から市内公立中学校・義務教育学校の生徒代表16人と引率教諭1人、市民代表2人の平和使節団が参列しました。


原爆が投下された午前8時15分に黙とうをささげるとともに、被害の恐ろしさを知るため、平和記念資料館などを見学しました。

また、平和使節団は9月27日に県南生涯学習センターで行われた「つちうらクローバーフェスティバル」で体験発表を行いました。


平和使節団として参加した中学生の平和への想いを紹介します。

◎総務課(☎内線2010)

土浦第一中学校
齊藤 大輝さん



僕は、平和使節団の一員として、3日間どれだけ平和が大切なのかを肌で実感することができました。平和記念資料館では、被爆者の方々の遺品が展示されていました。原型を留めていないものが多く、どれだけ原爆の威力が大きかったかを知り、とても心が痛みました。原爆によって亡くなった命を決して無駄にしないために、平和の大切さについてよく考え、多くの人にそれを伝承していく使命が僕たちにあると感じました。



土浦第一中学校
山崎 友愛さん



私は、広島で戦争の悲惨さと平和の尊さを学びました。

たった一つの原子爆弾が広島を焼き尽くし、約十四万人もの命が奪われたという事実が胸が痛みました。明日が来るのが当たり前ではないことに改めて気づかされ、一日一日を大切に過ごそうと思いました。二度と同じ過ちを繰り返さないために、平和の尊さを語り継いでいきたいです。



土浦第二中学校
小林 拓翔さん




僕は今回平和使節団で2つのことを学びました。1つ目は、被爆した方が高齢で少なくなっており、体験談を聞くことが難しくなっているということです。2つ目は、原爆はたくさんの人の命を奪い、奇跡的に助かっても、被爆の後遺症で今もまだ苦しめられている人がいるということです。


僕は、たくさんの人に原爆の脅威を知ってもらい、日本だけでなく世界中で二度と同じ苦しみに遭う人が出ないことを願っています。




土浦第二中学校
中田 いろ葉さん




私は、広島で、原爆の恐ろしさ、被爆者の辛い思いを知り、とても胸が痛くなりました。二度とこんな悲しい出来事が起こらないようにするには、戦争を知らない私たちがもっと平和について知り、考えなければいけません。そこで、数少ない被爆者から直接話を聞き、平和の尊さや戦争の悲惨さを発信していきたいと思います。そして、戦争のない世界が一日でも早く実現できるよう、一生懸命活動していきたいと思います。




土浦第六中学校
辻川 拓実さん




私は、平和記念公園や広島平和記念資料館を訪れ、たった一つの原子爆弾が引き起こす被害に衝撃を受けました。被爆者の方が描いた絵などを見ると、当時どんな状況だったか、被爆後どんな苦しみを味わったかがよくわかり、平和の大切さについて、多くのことを学びました。
今回の貴重な体験を忘れぬよう、しっかり記憶の中に残し、その大切さを周囲に伝えていきたいです。





土浦第六中学校
戸崎 新菜さん




平和使節団に参加した3日間で、平和の大切さ、戦争や原爆の悲惨さを改めてよく学ぶことができました。平和記念資料館や原爆ドームの見学では、本やSNSの情報だけでは得られない「原爆の真実」を知ることができました。原爆投下の日から80年、あの時の記憶を知っている人は少なくなっています。この経験を活かし、戦争の記憶が色あせることのないよう、この世界から戦争が無くなるよう、みんなに伝えていこうと思います。




都和中学校
荒澤 奏輔さん




原爆投下は、過去に起きた事実です。しかし、決して終わった話ではなく、今も被爆で苦しむ人やその親族の心の中に深く残っています。実際に広島を訪れ、資料館や原爆ドームを見たことで、数字や言葉では感じられなかった命の重みや悲しみを知りました。原爆の悲劇は、今を生きる私たちがしっかりと受け止め、平和な未来をつくるためにより多くの人に伝えていきたいと思っています。




都和中学校
青山 杏奈さん




日本に初めて原爆が落とされた広島原爆ドームを訪れて、建物は今も壊れて残っており、ここで子どもや人々の多くの命が一瞬で奪われたんだと思うと胸がぎゅっと締めつけられました。今、私達にできるのは、広島で本当にあったことに関心を持って、行動に移し、もうあの日のことを繰り返さないように少しでも原爆の日のことを伝えていき、平和の輪を広げていくことだと思います。貴重な体験を、ありがとうございました。



新治学園義務教育学校
小泉 晴琉さん




80年前の8月6日、広島で暮らしていた人たちの日常は一発の原子爆弾によって奪われました。そして今もお被爆した方々の心の傷は癒えることはありません。現在、世界ではさまざまな国々で戦争が続いています。原爆によって平穏な日常を奪われる人がもう二度と現れないように、原爆の記録を後世に伝えていき、戦争の記憶を風化させないこと、一人ひとりが平和について考えることが私は大切だと思いました。



新治学園義務教育学校
大芦 優奈さん



一発で何十万人もの被害者が出た原爆。もしそれが今後戦争に使われてしまったら、80年前よりもっと多くの犠牲者が出ます。そうならないために日本は唯一の被爆国として、戦争の悲惨さを世界に伝えていかなければいけないと実感しました。そのために、私は今回の貴重な体験を活かして、身近なところから原爆の非人道性について伝えていこうと思います。




原爆・平和

- 核兵器廃絶の推進
- 平和意識の醸成
- 被爆の実相の継承
- 平和記念式典
- 被爆者援護・慰霊・復興
- 平和関連施設、法令等

国内の自治体等に対する原爆被害等を疑似体験できるVRゴーグルの貸出し



ページ番号1032782 更新日 2026年2月12日

印刷 大きな文字で印刷

本市では、被爆の実相のVR(バーチャルリアリティ)映像が組み込まれたVRゴーグルを借り上げ、本市が実施する原爆・平和展等において、多くの人に原爆投下時の悲惨さや現在の広島の状態を疑似体験していただくことにより、広島を訪れるきっかけとしてもらうとともに、平和についてより深く考える機会を提供しています。

その取組の一環として、以下のとおり国内の自治体等に対してVRゴーグルの貸出しを行います。

令和8年(2026年)7月下旬～8月下旬の利用について、既に全台の予約が埋まりました。

貸出しについて

対象:国内の自治体、国及び学校等が主催又は共催する「ヒロシマの心」を共有する取組

料金:無償(送料のみ貸出希望者が負担)

貸出台数:2台まで

貸出期間:1か月以内(本市との往復に掛かる期間を含む。)

※詳細は貸出要綱(下部「ダウンロード」に掲載)をご確認ください。

VRゴーグルについて

参考:映像の一部様子



被爆前の中島町の様子



被災直後の元安川付近の様子



被爆後の相生橋

(画像)出典:PEACE PARK TOUR VR

※上の3点の画像の使用には、事前の申請及び権利者による許諾が必要です。無断で使用しないでください。許諾までに時間を要する場合があります。詳しくはお問い合わせください。

原爆・平和

被爆の実相の継承

被爆体験

・被爆体験証言者及び家族伝承者を募集します

・被爆証言応答装置の製作に当たり、被爆者への質問作成に協力いただける小・中・高校生を募集します(受付終了)

・被爆体験伝承者養成事業

・【募集終了】被爆体験伝承者を募集します

・国内の自治体等に対する原爆被害等を疑似体験できるVRゴーグルの貸出し

・被爆証言応答装置の製作

このページを見た人はこんなページも見ています

> 国内の自治体等に対して原爆被害等を疑似体験できるVRゴーグルの貸出しを開始します

> 被爆体験

> (令和8年度)教員募集動画

> 広島市総合計画(令和5年版広島市勢要覧)

> ベアレント・プログラム【研修型】の開催(令和7年度受付終了)

活用事例

活用例

- ・(自治体) 原爆・空襲・平和に関するパネル展会場に体験コーナーを設置
- ・(自治体) 被爆体験講話の会場に体験コーナーを設置
- ・(学校) 平和学習の補助教材として活用

体験された方の声

- ・二度とこのようなことを起こしてはいけなと感じた。
- ・当時の悲惨な様子を目の当たりにしたような感覚になった。
- ・映像に出ていた場所に実際に行ってみようと思う。
- ・実際にその場にいるかのような臨場感に驚き、恐ろしくなった。
- ・体験を機会に、我が子と原爆について考える時間を持つことができた。

活用された方の声

- ・先端技術を活用し、戦争体験を後世につないでいくことを意義深く感じた。
- ・没入感のある仮想現実で原爆被害の実相を疑似体験することで、理解を深めていただくことができた。
- ・当時の状況をVR映像で疑似体験でき、当事者意識を持ってもらうことができた。
- ・VRゴーグルに興味を持ってもらったことをきっかけに、幅広い年代の方に原爆や平和について自分事として考えてもらうことができた。

PDFファイルをご覧いただくには、「Adobe(R) Reader(R)」が必要です。お持ちでない方は[アドビシステムズ社のサイト\(新しいウィンドウ\)](#)からダウンロード(無料)してください。

このページに関するお問い合わせ

市民局国際平和推進部 平和推進課被爆体験継承担当
〒730-0506 広島市中区国泰寺町一丁目6番34号
電話:082-504-2900(被爆体験継承担当) ファクス:082-504-2906
✉ peace@city.hiroshima.lg.jp

出典:広島市ホームページ

「国内の自治体等に対する原爆被害等を疑似体験できるVRゴーグルの貸出し」から抜粋

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/atomicbomb-peace/fukko/1021099/1032782.html>